

# 令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

## 第4学年【国語】

### 1. 実態の分析

- 台東区総合学力調査の結果を見ると、観点別に見ると「話す・聞く能力」は、目標値を上回っている。一方で「言語についての知識・理解・技能」、「書く能力」については、目標値を上回ることができなかった。
- 設問別に見ると「ローマ字のつづりを理解している」、「国語辞典の使い方を理解している」、「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることができる」、「文章を書くことができる」は、目標値を下回っている。特に、文章を読んで自分の考えをもち、文章を書く力が十分に身に付いていないことが分かる。
- 初めての学力調査ということもあり、国語全体の問題を時間内に終えることのできなかった児童が多く、無解答の児童も見られた。

### 2. 改善策

- ローマ字表を掲示したり、ローマ字の学習を宿題に出したりして、継続して取り組ませていく。また、パソコンの文字入力をローマ字入力にし、定着できるようにする。
- 学習の中で国語辞典を使う機会を設けて、使い方を復習し定着させ、使う習慣を作っていく。
- 毎日の宿題の中に100マス作文を取り入れる。また、学習の中でテーマを与えてそこから考えをもち、文を書く習慣を身に付けさせ、書く能力を高められるようにする。

<改善策に対する検証>

- 10分間程度で、テーマに対して100字程度の文章を書ける児童を8割以上にする。
- 学年末にローマ字の復習テストを行い、90%定着している児童を8割以上にする。
- 国語辞典を用いて調べることができる児童を9割以上にする。

## 第4学年【算数】

### 1. 実態の分析

- 台東区の学力調査では、基礎・活用共に目標値を上回っている。
- 観点別に見てみると、「数学的な考え方」が、他の観点と比較すると低かった。
- 領域別に見ると、「図形」、「量と測定」が、区の平均を上回っている。「数量関係」は、他の観点と比較すると低かった。
- 「□を使った式」を考える問題の正答率が低かった。

### 2. 改善策

- 文章問題を解くことに課題のある児童が多いことから、毎日の宿題の中で文章問題に接する機会を取り入れていく。
- 文章問題を解くときには、「求めること」（何を答える問題なのか）や「分かっていること」をしっかり押さえる。また、図を書いたり、数直線（テープ図）を書いたりして、問題をイメージしやすいようにしていく。
- 「□を使った式」は、問題場面をテープ図に表させることによって、数量の関係を正しく捉えさせる。また、テープ図に表させることで、加法と減法との相互関係を正しくつかませる。
- 宿題、小テスト、授業の最後の適用問題など、同質の問題に繰り返し取り組ませ理解を確実にする。

<改善策に対する検証>

- 学年末に、台東区総合学力調査の設問と類似した問題に取り組ませ、正答する児童を9割以上にする。

# 令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

## 第4学年【理科】

### 1. 実態の分析

- 観点別に見てみると、「科学的な思考・表現」が、他の観点と比較すると低かった。
- 自然事象についての知識・理解では、個人差が大きい。
- 観察や実験については、意欲的に取り組む。
- 実験の結果から分かったことを自分の言葉で説明したり、書いたりする点においては十分ではない。

### 2. 改善策

- 実験前にしっかり予想を立て、なぜそのように考えたのか伝える活動を行う。
- 実験の結果をワークシートやノートに正確に記載させ、理解度を把握する。また、記載できない児童に対しては、助言していく。
- 結果について、わけを自分で考え、友達と話し合う。
- 単元テストを行う前に補充問題を行い、定着状況を把握する。

<改善策に対する検証>

- 実験の結果から分かったことや学習のまとめをワークシートやノートに記述できる児童を9割以上にする。

## 第4学年【社会】

### 1. 実態の分析

- 学年の平均の達成率は85%であった。観点別に見ると、「知識・理解」の達成率が88%に対し、「観察・資料活用の技能」は86%、「社会的な思考・判断・表現」の達成率は、81%であった。「社会的な思考・判断・表現」の達成率が低いことから、資料を基に判断したり、表現したりする力を育成する必要がある。
- 身に付けた知識や資料から読み取ったことを基に、社会的に考え、判断し、表現する力に課題がある。
- 複数の資料から読み取ったことを整理し、結び付けて考察する力に課題がある。

### 2. 改善策

- 単元の導入教材、各時間の導入教材を工夫することで、児童に学習に対する必要感を感じさせるとともに、児童自らが学習課題を明確に意識できるような板書をする。また、毎時間必ず振り返りを行い、一人一人の理解度を把握する。
- 資料を読み取り考察していく際、児童の手元にある資料と同じものを書画カメラやデジタル教科書で写して提示し、資料のどこを読み取って考察しているのかが共有できるようにする。
- 単元テストを行う前に補充問題を行い、定着状況を把握する。

<改善策に対する検証>

- 身に付けた知識や資料から読み取ったことを基に、社会的に考え判断し、ノートに記述できる児童を9割以上にする。

# 令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

○複数の資料から読み取ったことを整理し、結び付けて考察し、発表したりノートにまとめたりできる児童を8割以上にする。